



平成
26 年度 発掘調査

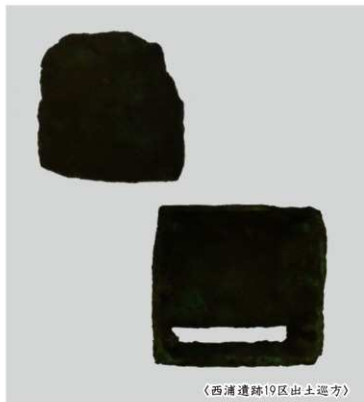
埋文 さかど年報



《山田遺跡18区調査区空撮》



《下田遺跡2区A-1区壁穴住居跡》



《西浦遺跡19区出土巡方》

坂戸市教育委員会

平成26年度発掘調査の概要

調査した主な遺跡の年代

平成26年度は、本発掘調査を25件(平成25年度からの継続調査も含む)実施しました。入西地区で特に多く、11件の調査を行っています。近年、個人住宅建設に伴う小規模な調査が多くなっていますが、坂戸市役所の周辺に広がる山田遺跡では、広い面積を対象として調査を実施しました(9・12頁参照)。

平成26年度に実施した発掘調査の中で、しもだいせき下田遺跡2区じっさいしづかこらんと入西石塚古墳の調査は、特に重要な調査として、位置づけられます。

下田遺跡2区は、坂戸西スマートインターチェンジ周辺の開発に伴い、約4万㎡を発掘調査しました。弥生時代から中世まで、長期間にわたる遺物・遺構が発見されましたが、たてあなじゅうきょあて弥生時代後期の竪穴住居跡が低地で多く発見されたことが大きな成果でした。

入西石塚古墳からは、5世紀後半のかぶと冑やかんざし短甲、かぶたて頸甲などを発見し、これらがセットで出土したことは、埼玉県内初の事例となりました。そのため、平成27年3月18日から3月22日にかけて、展示会を実施し、多くの方々が見学されました。

また、表紙に掲載した巡方は、じんぽう西浦遺跡19区の竪穴住居跡から出土したものです。古代の役人が付けた腰帯の飾りであり、まるとも丸柄も含めると坂戸市内では3例目ですが、銅製の巡方に限れば初めての出土事例となりました。

なお、みどりちよせいせき緑町遺跡1区やいってんくせいせき一天狗遺跡1区は、坂戸市として発掘調査を始めて約40年の中で初めての調査で、遺跡の広がりや集落の年代などを考える上で重要な調査です。

平成26年度は発掘調査件数が多く、様々な時代の遺跡の調査を行いました。次頁からそれらの調査の概要についてみていきましょう。

旧石器

約1万2千年前

縄文

約2,300年前
(諸説あり)

弥生

木曾免遺跡6区
下田遺跡2区
約1,700年前

古墳

花影遺跡26区
景台遺跡9・10区
入西石塚古墳
西浦遺跡20区
約1,300年前

奈良

山田遺跡17区
約1,200年前

平安

山田遺跡18区
西浦遺跡19区
緑町遺跡1区
約800年前

鎌倉

約650年前

室町

約400年前

江戸

1. 花影遺跡26区

所在地 坂戸市中富町
調査期間 平成26年4月7日から平成26年5月14日まで



遺跡位置図



方形周溝墓から土器した土器

調査した遺構と年代

- ・竪穴住居跡2軒（古墳時代前期）
- ・方形周溝墓1基（古墳時代前期）
- ・溝跡3条（古代、時期不明）
- ・土坑2基
- ・ピット2基

方形周溝墓は、住居跡を壊してつくられており、時期とともに人が住む居住域から、人を祀る墓域へと土地利用の形態が変化していったことが分かりました。方形周溝墓からは、ほぼ完全な形で壺が出土しています。

また、溝跡から古代の須恵器甕が割られた状態でまともに出ており、意図的に破碎したものと考えられます。なんらかの儀礼を執り行ったものと推測されます。

2. 内出遺跡7区

所在地 坂戸市大字堀込
調査期間 平成26年5月1日から平成26年5月29日まで

調査した遺構と年代

- ・竪穴住居跡1軒（古墳時代前期）
- ・竪穴状遺構1基
- ・土坑5基
- ・溝跡3条
- ・ピット16基

内出遺跡は、今まで古墳時代前期の竪穴住居跡は見つかっていませんでした。今回の調査で、その存在を始めて確認することができ、大変重要な調査となりました。

土坑や溝跡からは、遺物がほとんど出土しなかったため、時期の判定ができませんでしたが、磁器などが出土しています。



遺跡位置図



調査区全景

3. 景台遺跡9・10区

所在地
調査期間

坂戸市大字紺屋

平成26年5月26日から平成26年6月17日まで



遺跡位置図



調査区全景

調査した遺構と年代

・方形周溝墓 3基 (古墳時代前期)

方形周溝墓3基は、いずれも古墳時代前期の遺構です。周囲を巡る溝の中央に埋葬施設が存在したと考えられますが、削平されたため、発見できませんでした。

写真右側の方形周溝墓は、周溝の3辺が繋がらずに途切れています。写真上の方形周溝墓は一辺が13m以上で、坂戸市内では比較的大型のもです。周溝の中からは小型の壺が出土しています。

なお、調査区からは縄文土器も見つっていますが、縄文時代の遺構は発見されませんでした。

4. 林際遺跡4区

所在地
調査期間

坂戸市大字青木

平成26年7月22日から平成26年7月30日まで

調査した遺構と年代
・溝跡 1条

小規模な調査であったため、全体像はつかめませんでしたが、南北方向に延びる溝跡が発見されました。溝跡から遺物が出土しなかったため、正確な時期は不明ですが、溝跡の外から土師器が出土し、古墳時代から古代の遺構の可能性があります。

林際遺跡は、東山道武蔵路の東側に位置する遺跡で、かつて鉄製の棒杵のおもりが出土したことで有名です。度量衡に関わる遺物から遺跡周辺で「市」があった可能性が指摘されています。



遺跡位置図



調査区全景

5. 番匠・下道遺跡

所在地

坂戸市大字青木

7・8区

調査期間

平成26年7月22日から平成26年8月5日まで



遺跡位置図



調査風景

調査した遺構と年代

- ・遺物包含層（縄文時代早期・中期）
- ・集石遺構1基（縄文時代）

遺構は、集石遺構が1基確認されたのみでしたが、遺物を含む黒色土からは、800点以上の縄文土器が出土しています。遺跡の南側には、二階川が流れており、その作用で開析された谷に黒色土が厚く堆積しています。遺物を含む黒色土は、この沖積土であり、周辺の遺跡から遺物を運んできたと考えられます。

周辺では、縄文時代の集落跡である御新田遺跡が（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団により調査されています。

6. 西浦遺跡18区

所在地

坂戸市大字新堀

調査期間

平成26年6月25日から平成26年8月21日まで

調査した遺構と年代

- ・古墳1基（古墳時代終末期）
- ・土坑1基

現在まで存在が明らかでなかった古墳を1基調査しました。墳丘の大部分は、後世の開墾により破壊されていましたが、墳丘や横穴式石室の一部、その周囲を巡る周溝を確認することができました。周溝の南側は一部途切れており、ブリッジ状になっています。埴輪は出土しませんでした。周溝からは須恵器壺と甕が出土しました。

なお、新たに発見したこの古墳は、北峰28号墳と名付けました。



遺跡位置図



調査区全景

7. 西浦遺跡19区

所在地 坂戸市大字新堀
調査期間 平成26年7月23日から平成26年8月29日まで



遺跡位置図



巡方出土状況

調査した遺構と年代
・竪穴住居跡2軒(平安時代)
・土坑1基

竪穴住居跡から銅製の巡方(じゅんぼう)が出土しました。巡方は、古代の役人が身分を表すために付けた腰帯(ようたい)の装飾用帯金具で、身分に応じて金・銀・銅製、石製のものがあります。今回出土した帯金具は銅製で、有力者から入手したものと考えられます。坂戸市内では、初めての出土となり、遺跡の性格を考える上で重要な発見となりました。

なお、縄文土器も出土しましたが、その時代の遺構は発見されませんでした。

腰帯の様式図



8. 一天狗遺跡1区

所在地 坂戸市緑町
調査期間 平成26年9月2日から平成26年9月12日まで

調査した遺構と年代
・竪穴住居跡1軒(平安時代)

竪穴住居跡1軒の半分を調査し、北側の壁面に竈を設けていることが分かりました。平安時代の土器や紡錘車(糸を紡ぐ道具)などが出土しています。

一天狗遺跡は、坂戸市から鶴ヶ島市にかけて広がっている遺跡で、鶴ヶ島市では、多くの調査が行われ、漆紙文書や帯金具などが出土したことで良く知られた遺跡です。今回、坂戸市で始めて竪穴住居跡が発見され、一天狗遺跡の広がりやその性格を知る上で、貴重な調査となりました。



遺跡位置図



竪穴住居跡完掘状況(生活面)

9. 入西石塚古墳

所在地 坂戸市大字善能寺

調査期間 平成26年9月18日から平成26年9月19日まで

出土した遺物と年代

- ・武器〔大刀・剣・槍・鉾・鉄鍔〕
- ・武具〔冑・短甲・板鍔・頸甲・肩甲〕
(古墳時代中期)

昭和30年代に入西石塚古墳を土地所有者が掘削し、偶然遺物が出土しました。昭和37～38年に1m四方の穴を掘り、鏡以外の遺物は再埋納されました。出土した遺物には、鏡のほかに武器などが含まれることが記録に残っていましたが、詳細な情報は分かっていませんでした。

遺物の所在を確認するため、記録をもとに、この再埋納した場所を発掘調査したところ、武器・武具類が割れてはいましたが、良好な状態で残っていることが分かりました。元の状態に戻すため、接

合作業を行った結果、下図のような甲冑であることが判明しました。冑・短甲・板鍔・頸甲・肩甲がセットで出土したことは、埼玉県内初の事例となり、大変重要な調査となりました。埋葬されていた豪族はどんな人物だったのでしょうか。



(甲冑の模式図)



遺跡位置図



短甲



再埋納の様子(昭和37～38年当時)



乳文鏡

10. 宮ノ前遺跡9区

所在地
調査期間

坂戸市大字片柳

平成26年7月1日から平成26年9月26日まで



遺跡位置図



住居貯蔵穴出土遺物

調査した遺構と年代

- ・ 竪穴住居跡6軒(古墳時代中期～終末期)
- ・ 方形周溝墓2基(弥生時代後期)
- ・ 溝跡12条
- ・ 土坑11基
- ・ ビット群

調査区を2箇所に区分し、実施しました。9区-1では、古墳時代中期から終末期の竪穴住居跡を調査し、住居内に設けられた貯蔵穴からは完形の土師器環が出土しました。また、調査区中央には中世以降の溝跡を発見し、覆土が硬くなっていたことから道として利用されていたと考えられます。

9区-2では、一辺約18mの弥生時代後期の方形周溝墓を発見し、この地区周辺では、大型のものと云えます。

11. 西浦遺跡20区

所在地
調査期間

坂戸市大字北峰

平成26年8月26日から平成26年10月10日まで

調査した遺構と年代

- ・ 古墳2基(古墳時代後期)

直径約15m～20mの円墳を2基調査しました。古墳の周溝からは、埴輪が多数出土し、6世紀に築造された古墳であることが分かりました。

写真下の北峰22号墳には張り出しがあり、近接する北峰21号墳でも同様な張り出しをもつ周溝が確認されています。

北峰22号墳は、平成10年にも南側の周溝を調査しており、その際には人物埴輪が出土しています。今回の調査では円筒埴輪のみが出土しました。埴輪の出土位置から、埴輪の配置された場所が推測できます。



遺跡位置図



調査区全景

12. 木曾免遺跡6区

所在地 坂戸市大字小沼
調査期間 平成26年9月30日から平成26年11月6日まで



遺跡位置図



方形周溝墓土器出土状況

調査した遺構と年代

- ・ 竪穴住居跡3軒
(縄文時代・弥生時代後期)
- ・ 方形周溝墓1基(弥生時代中期)
- ・ 溝跡1条

墳丘はすでに削平されていましたが、一辺約20mの大型の方形周溝墓が見つかりました。周溝からは弥生時代中期の土器が多く出土し、この地域において貴重な調査となりました。方形周溝墓の中央には埋葬施設と考えられる長方形の土壇が2基ありましたが、副葬品は見つかりませんでした。

なお、調査区からは縄文時代と弥生時代後期の住居跡も確認されています。

13. 前林遺跡6区

所在地 坂戸市大字中小坂
調査期間 平成26年10月7日から平成26年11月21日まで



遺跡位置図

調査した遺構と年代

- ・ 竪穴住居跡5軒(縄文時代後期・古墳時代中期～後期・奈良時代)
- ・ 掘立柱建物跡1棟
- ・ 井戸跡1基(奈良・平安時代)
- ・ 溝跡3条
- ・ 土坑2基
- ・ 炉穴1基
- ・ ビット20基
- ・ 遺物集中地点1箇所(古墳時代中期)

竪穴住居跡が5軒見つかりました。時代も縄文時代、古墳時代、奈良時代と様々で、断続的ながら、長期間にわたって集落域として利用されていたことがわかります。



竪穴住居跡遺物出土状況

14. 稲荷森遺跡5区

所在地
調査期間

坂戸市大字小山

平成26年10月24日から平成26年12月9日まで



遺跡位置図



調査風景

調査した遺構と年代

- ・ 竪穴住居跡4軒(平安時代)
- ・ 溝跡1条
- ・ 土坑11基

竪穴住居跡の内、3軒は重複した状態で見つかりました。いずれの住居跡も平安時代に位置づけられることから、ほぼ同じ場所で何度も建て替えながら居住していたことが分かります。また、3つの竈が見つかった住居跡もあり、竈も修復や造り替えをしながら生活していたと考えられます。

土坑や溝跡は住居跡よりも新しい時代の遺構と判断できましたが、正確な時期は不明です。

15. 稲荷森遺跡6区

所在地
調査期間

坂戸市大字小山

平成26年11月27日から平成27年1月9日まで

調査した遺構と年代

- ・ 竪穴住居跡3軒(平安時代)
- ・ 土坑11基

稲荷森遺跡5区の西に隣接する場所を調査し、5区と同様に平安時代の集落を確認することができました。

竪穴住居跡の一つからは、竈とは別に赤く焼けた土坑が見つかりました。この土坑の底面は、非常に強く焼けていることから小鍛冶の炉跡だと考えられます。

小形の鉄製品を製作していたと思われるのですが、製作過程で出る鍛造剥片や鍛冶の際に使われる羽口などの工具は出土しませんでした。



遺跡位置図



竪穴住居跡発掘状況

16. 山田遺跡17区

所在地 坂戸市八幡
 調査期間 平成26年10月9日から平成26年12月12日まで

調査した遺構と年代

- ・堅穴住居跡7軒(奈良・平安時代)
- ・掘立柱建物跡2棟(奈良・平安時代)
- ・井戸跡4基(平安時代)
- ・土坑5基
- ・柱穴37基

堅穴住居跡を7軒確認しましたが、多くの住居跡は、平安時代のものです。

今回の調査で注目されるのは、特殊な形の井戸跡と石製の棹形のおもり・コップ形須恵器が出土したことです。

古代の井戸跡は基本的に円柱状の素掘りのものが多いですが、今回は、階段状の溝が付設された井戸跡が確認されました。この形態の井戸跡は官衙や交通の要衝などと考えられる遺跡で確認されてお

り、山田遺跡でこのような遺構・遺物が発見された背景にはどのようなことが考えられるのか、大変興味深い事例です。

また、石製のおもりやコップ形須恵器は、重さなどを量る道具であり、今までは東山道武蔵路の東側に位置する林際遺跡や宮町遺跡などでしか見つかっていませんでした。遺物・遺構の両面で新たな発見があり、大変重要な調査となりました。



遺跡位置図



調査区空撮



竈遺物出土状況



井戸跡完掘状況

17. 北殿遺跡3区

所在地 坂戸市大字成願寺
調査期間 平成27年1月6日から平成27年1月23日まで



遺跡位置図



竪穴住居跡完掘状況(生活面)

調査した遺構と年代
・竪穴住居跡2軒
(古墳時代終末期・平安時代)

北殿遺跡は葛川に沿った台地縁辺に位置しています。北殿遺跡に隣接する若宮遺跡や富士塚遺跡も奈良・平安時代の集落跡で比較的広い範囲にわたって古代の集落域が確認されている地域です。

今回の調査は、狭い面積の調査であったため、住居跡の全貌を把握できませんでしたが、土師器・須恵器・鉄製品が出土しており、いままでの調査成果と同様に、平安時代の集落域が広がっていることを確かめることができました。

18. 緑町遺跡1区

所在地 坂戸市緑町
調査期間 平成27年2月9日から平成27年3月11日まで

調査した遺構と年代
・竪穴住居跡2軒(奈良・平安時代)
・掘立柱建物跡1棟
・土坑1基
・ピット群

竪穴住居跡から大型の須恵器甕が出土し、接合した結果、ほぼ完全な状態になりました。肩部には、故意に穴が空けられ、住居を廃絶するにあたり何らかの儀礼行為が行われた可能性もあります。

緑町遺跡の発掘調査は、今回が初の調査事例でこれまで遺跡の性格が不明確でしたが、今回の調査で奈良・平安時代の集落跡が広がっていることを確認することができました。



遺跡位置図



住居跡出土須恵器甕

なかはら
19. 中原遺跡7・8区

所在地
調査期間

坂戸市大字堀込

平成27年2月24日から平成27年3月12日まで



遺跡位置図



堀跡の土層断面

調査した遺構と年代
・溝跡2条(中世～近世)
・土坑2基

中原遺跡から村中遺跡にかけて、「堀込」という地名が示す通り、中世の城館跡が多く確認されている地区です。

今回調査した場所の北側には、以前土塁が存在しており、調査した場所はこの土塁に伴う堀である可能性があります。

土塁は残っている箇所が少なくなっていますが、入幼幼稚園の周辺では現在も確認することができます。どのような人が住んでいたのかは、史料が残っていないため、不明です。

コラム 大伴部直赤男と西大寺領荘園

8世紀末に編纂された日本の歴史書である『続日本紀』には、769年に入間郡の大伴部直赤男が、現在の奈良市に所在する西大寺へ布1,500段、稲74,000束、墾田40町、林60町を寄進した(献上した)ことの記事があります。また、後に書かれた「西大寺所領荘園注文案」には、西大寺の支配の及ばなくなった土地として「武藏国入間郡安堵郷粟生村 田40町 林60町」と記載されていることが知られています。1町が約100m四方の面積ですので、田・林100町は1km四方の広大な土地です。

諸説ありますが、安堵郷粟生村は、現在の坂戸市大字粟生田を指しているのではないかと考えられています。現在の粟

生田地区は、下田遺跡の一部と高麗川の対岸の川沿いの土地を指しています。

下田遺跡2区では平安時代の水田跡が調査されました(13頁参照)。この水田は日本古代史の中で位置づけられる重要な調査であった可能性が高まりました。



下田遺跡2区空撮

20. 山田遺跡18区

所在地 坂戸市八幡
調査期間 平成27年1月7日から平成27年3月25日まで

調査した遺構と年代

- ・ 竪穴住居跡13軒(奈良・平安時代)
- ・ 掘立柱建物跡10棟
- ・ 井戸跡3基
- ・ 土坑22基
- ・ 柱穴27基
- ・ 溝跡1条
- ・ 柵列1列

山田遺跡では、これまでの18回の調査を行ってきましたが、遺跡の中心となるのは、16区周辺であることが分かってきました。それは、16区での調査で、墨書土器が多量に出土したこと、その東側に隣接する13区では銅製蛇尾(帯金具)が、南側に隣接する国道407号線を調査した際には、奈良三彩や「片牧」墨書土器が出土していることから推測できます。

山田遺跡18区は、この場所から離れていますが、住居跡13軒、掘立柱建物跡10棟を調査しました。掘立柱建物跡のうち1棟では、柱穴が直径1m以上で、四隅の柱穴はL字状に屈曲するように掘削されていました。柱穴の覆土は関東ロームと黒色土が交互に搗き固められ、柱材を強固に固定していたと考えられます。掘立柱建物跡は、調査区北側に比較的多く見られたことが特徴的です。



遺跡位置図



調査区区境



掘立柱建物跡完掘状況



竈遺物出土状況

21. 下田遺跡2区

所在地 坂戸市大字粟生田・戸口・塚崎・中里
 調査期間 平成26年9月16日から平成27年9月30日まで

調査した遺構と年代

- ・ 竪穴住居跡50軒
- ・ 掘立柱建物跡9棟
- ・ 井戸跡17基
- ・ 土坑248基
- ・ 溝跡301条
- ・ 土坑墓1基
- ・ 柱穴1055基
- ・ 水田跡
- ・ 畦畔
- ・ 畝跡 など

(弥生時代後期～古墳時代前期、
 古墳時代後期・奈良時代・平安時代・
 中世・近世)

約4万㎡を対象として約1年間発掘調査を実施し、遺跡は現水田面下約0.3～2.5mで見えられました。時期も弥生時代から近世と多岐に渡っていました。

特に注目されたこととして、弥生時代後期のいわゆる「吉ヶ谷式期」の竪穴住居跡がまとまって確認できたことが挙げられます。この時期の住居跡の中には、炭化材を床面に敷き詰めたような状況の住居があり、焼失した住居とはやや異なる状態でした(表紙口絵参照)。また、この時期には畝跡も確認されており、畑作が行われた可能性があります。

奈良・平安時代には、広い範囲で水田が広がり、この水田と集落域は溝跡により区画され、土地の使い分けがなされていたようです。この広大な水田は、周辺地域に居住する人々にとって、大きな経済的基盤であったと思われます。



遺跡位置図



調査区空撮



住居跡出土イノシシの牙



焼失した住居跡



平成26年度発掘調査現場位置図

■ [凡例]

- ①花影遺跡 26区
- ②内出遺跡 7区
- ③景台遺跡 9・10区
- ④林際遺跡 4区
- ⑤番匠・下道遺跡 7・8区
- ⑥西浦遺跡 18区
- ⑦西浦遺跡 19区
- ⑧一天狗遺跡 1区
- ⑨入西石塚古墳
- ⑩宮ノ前遺跡 9区
- ⑪西浦遺跡 20区
- ⑫木曾免遺跡 6区
- ⑬前林遺跡 6区
- ⑭稲荷森遺跡 5区
- ⑮山田遺跡 17区
- ⑯稲荷森遺跡 6区
- ⑰北殿遺跡 3区
- ⑱緑町遺跡 1区
- ⑲中原遺跡 7・8区
- ⑳山田遺跡 18区
- ㉑下田遺跡 2区

埋文さかど年報
(平成26年度発掘調査)

■ 発行/平成28年1月18日
 ■ 発行者/坂戸市教育委員会
 埼玉県坂戸市千代田一丁目1番1号
 ■ 印刷/有限会社 タイアップ・ユウ